

❧編集後記❧

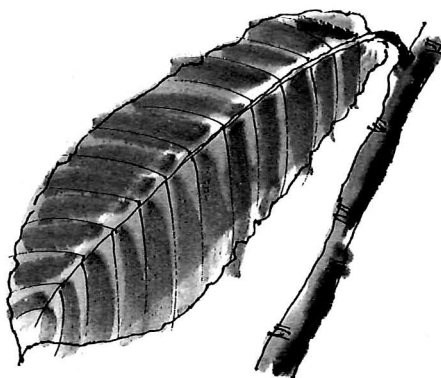
月日の経つのは早いもので、第26巻の最終号をお届けします。

今年は人の死に関する報告が相次ぎ、1月には臨時脳死及び臓器移植調査会が「脳死を人の死」と答申し、3月には日本医師会生命倫理懇談会が末期医療の定義を「患者が死の病で病床に就いてから死を迎えるまでの医療で、その期間は6カ月程度、またはそれより短い」としたことは高度医療技術、延命医療における医倫理から生命倫理を再考する機会をわれわれに提供しています。

我が国は世界一の長寿国となり、人は永遠に生きられるかのような錯覚を抱きますが、死は確実にしかも予期せぬときに訪れます。3人中2人が医療施設で死を迎えている今日、家族も近づきにくいような延命医療と生の尊厳を希求する患者・家族とのギャップは大きく、終末医療は社会問題となっています。

そこで今月号の特集は「終末期ケアと理学療法」としました。このテーマは第20巻第8号に続いて2度目ですが、今回は、疼痛、倦怠感、心理的不安など多くの苦痛を伴う終末期に、どのような観点で如何に理学療法アプローチすべきかを焦点としました。

郷地氏は終末期医療において全人間的な理念を基本とする医学的リハビリテーションの意義は大きく、希望のある援助が重要であると述べています。辻下氏は積極的・維持的・支持的理学療法の具体



的方法を提示しながら、ケアとしての理学療法を強調しています。仲氏にはホスピスでの理学療法システムを解説いただき、氏は安楽な肢位を見いだすことが疼痛緩和の基本としています。増本氏は在宅での終末期ケアの実践活動を基に、在宅では家族と病院との連携および社会資源が必要不可欠としています。對馬氏はアンケート結果から卒業生の多くが終末期の理学療法の意義を見失い、ジレンマ、無力感に陥っていると報告し、臨床に即した終末期ケアの卒前教育の充実を指摘しています。いずれも死と対峙した患者への日々の終末期ケアからにじみでた玉稿をいただき厚くお礼申し上げます。

入門講座、講座とも力作であり、川島氏の障害別の住宅関連福祉機器一覧は臨床現場で非常に役だつ内容です。

1993年が皆様にとって良い年でありますように祈念しています。(鶴見 隆正)

●編集顧問●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長
五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長
津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテ
ーションセンター名誉総長
横 山 巖
七沢リハビリテーション病院
脳血管センター名誉院長
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦
神奈川県総合リハビリテ
ーションセンター
上 田 敏
帝京大学リハビリテ
ーション科
鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院
奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部
福 屋 靖 子
筑波大学
松 村 秩
東京都立医療技術短期大学
吉 尾 雅 春
協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男
今 川 忠 男
宇都宮 初 夫
大喜多 潤
大 田 近 雄
大 橋 ゆかり
大 峯 三 郎
金 菊 誠 喜
木 山 延 子
工 藤 喬 博
佐々木 俊 輔
高 田 伸 一
高 田 京 子
高 橋 正 明
武 橋 由 雄
寺 山 久美子
富 岡 詔 子
長 澤 弘 隆
橋 元 治
濱 出 健 壽
半 田 しげ子
藤 沢 哲 男
前 田 代 博
牧 田 光 士
松 沢 起 夫
松 丸 和 仁
丸 山 重 司
宮 本 省 範
宮 本 三 子
矢 下 令 昭
山 谷 隆 儀
山 本 和 儀
米 田 睦 男

理学療法ジャーナル

(第26巻 第12号)

1992年12月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,442円(本体1,400円)
(配送料61円)

年ぎめ予約購読料 16,440円
(本体15,961円)
(送料弊社負担)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金 原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当：渡邊・大竹)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

ファクシミリ(03)3815-7802

振替口座 東京7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)3814-1971

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1992, Printed in Japan

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

R <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3269-5784)の許諾を得てください。

□訂正とお詫び

vol. 26 no. 12, 878 ページの「編集後記」中、右段下から
8 行目に次の誤りがありました。対時→対峙

以上、関係各位に御迷惑をおかけ致しました。訂正しお
詫び申し上げます。

(本誌編集室)